

7月号 ごあいさつ

With コロナ、ウッドショック時代 — 混迷の時代を生き抜く知恵 —

論語に学ぶ「信」 人間関係の叡智

株式会社 山西 あすなる会顧問
代表取締役社長 西 垣 洋 一

日本においても新型コロナウイルスのワクチン接種が加速しています。変異ウィルスの広がりや東京五輪を開催した際の感染拡大の懸念はあるものの、ワクチン接種率の高い地域である米国などでは、既に社会・経済活動の正常化に向け歩み始めており、コロナ克服に向け明るい兆しが見えてきました。

コロナ禍は、ニューノーマルと言われる新たな日常を私たちに強いました。感染防止の観点から、人流を抑え、人との接触を極力避けることが不可避となり、オンライン会議の普及、リモートワークの推進などのDXの取り組みの強化が求められています。With コロナ時代は、人と人とのコミュニケーションの在り方に、大きな変化が求められた時代だとも言えます。

DXの活用を始め情報技術の発展や移動手段の発達、私たちに多くの利便性を享受していますが、逆に人間関係が非常に薄っぺらで、希薄になっていると感じます。例えば昔は旅は命がけ、遠く離れた人と会うのは容易なことではありませんでした。ところが今は、簡単にコミュニケーションが図れます。会って泊まって、じっくりなんて必要はない訳です。人間関係がそういった中で変わっていくのも当然と言えば当然です。先日、興味深い新聞の投書を見ました。

“ バスに乗ったところ、ブザーが故障しましたので降りる方は声をかけて下さい、という運転手のアナウンスがありました。降りたい人は慣れない声を張り上げることになり、大きな声の人もいれば不安そうな声の人もいます。声が小さくて運転手に声が届きそうにない人は、近くの人が代わりに「降りるんだってー」と言ってあげる。何だかいつもは冷たいバスの中が人情味のある温かい雰囲気になりました。バスのブザーは便利だけれども大切なものも奪っていることに気づかされました。”

バスのブザーに限らず、これは非常に象徴的なことです。コンピューターも飛行機もなかった昔に戻ったら良いのか、といってもそれはできないことです。だとすれば便利になればなるほど、機械化されればされるほど何を忘れてはいけないのか、人間関係をどう構築し直していったらいいのか、そういったことを考え、努力していく必要があると言えます。

中国古典では、「仁」(惻隱の心)・「義」(羞惡の心)・「礼」(辭讓の心)・「智」(是非の心)の四徳に「信」を加え、五常として人の基本的徳目としています。「論語」ではこの中の「仁」と「信」を中心に、人間関係の在り方について説いています。「仁」という字は、人を表す人偏に二をかいて「仁」で、人が二人いてそれで思いやりという意味になります。又「信」という字は人偏に「言」と書き「人」と「言葉」です。それで嘘をつかない「誠実」というような意味になります。いずれも人間関係を突き詰めたあげくに生まれてきた言葉です。「論語」は冒頭の章で下記の言葉を記しています。

子曰はく、**學んで時に之を習ふ。亦説ばしからずや。朋あり遠方より來る、亦樂しからずや。人知らず、而して慍らず亦君子ならずや。**

「朋あり、遠方より來たる、また樂しからずや」この言葉に込められた温かい響きは、コロナ禍においてあらためて人と人との出会いや触れ合いの大切さを思い出させてくれます。親友がはるばる訪ねてきた。久しぶりに話が弾む。これはごく人間らしい自然な心情です。ところが忙しくなるとじっくり付き合っはられなくなります。誰もが気持ちがかさかさして素直な気持ちで人と接することができなくなり、例え親子の間柄であっても、核家族化が進む中で縁が薄くなってきているのが実情ではないでしょうか。

茶道の世界に、「一期一会」という言葉がありますが、事業経営に携わっていると「出会い」ほどありがたいものはないと心から感じられます。人との出会いや触れ合いを大切に、「信」- 信頼を醸成していくことこそが人間関係の基本と考えます。

我々木材 住宅業界は今、ウッドショックに見舞われ、資材不足、価格高騰、納期延長と多くの問題を抱えています。当社としましては、危機の時だからこそ日頃の信用・信頼関係を礎に、情報共有を図り、スピード感を持って、皆様とともに現在の最大の難局を突破して参る所存です。

2021年7月吉日

『論語』に学ぶ - 良好な人間関係を築く智慧

- **人の過つや、おのおのその覚においてす** - 「里仁第四」
人は過ちを犯すものであるが、よく見てみると同じような場面で間違いを犯すものである。そして、どこでその間違いを犯すのかを観察しておけばその人柄も理解することができる。
- **歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る** - 「子罕第九」
寒い冬にこそ、他の植物がしおれても、松や柏は緑を保っていることがわかる。人の真価は艱難(かんなん)にあつて初めて知られる。
- **詐りを逆えず、不信を億らず** - 「憲問第十四」
人に接する場合、初めからその人がだましてるのだと憶測せず、わけもなくその人が不誠実だと疑わない。率直に相対することが大切である。
- **己れの欲せざるところは人に施すことなかれ** - 「顔淵第十二」
自分がして欲しくないと思うことは、他人にとっても同じなのだから他人にすべきではない。善行を積みまえて、まず自分の行動を慎み、全体のルールに従うということが大切である。
- **夫れ仁者は己れ立たんと欲すれば人を立て** - 「雍也第六」
仁ある者は、自分が事をなし遂げようと思えば、まず人を助けて目的を遂げさせる。自分がある地位に到達しようと欲したら、先ずは最適と思われる人に譲りその地位につける。事を行なうにあたり自他のわけへだてをしない。
- **礼の用は和を貴しとなす** - 「学而第一」
良好な人間関係を築くためには、調和としての「和」を知って、調和を大事にして行いつつも、秩序としての「礼」を以て、節度をわきまえないとうまくいかない。
- **君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず** - 「子路第十三」
すぐれた人物は協調はするが、主体性を失わず、むやみに同調したりしない。つまらない人物はたやすく同調するが、心から親しくなることはない。
- **信、義に近づけば、言復むべし** - 「学而第一」
人と約束する時、行えるか否かを考えて、正しい道理に適っていれば、後になって後悔することはないので約束通りにそれを果たすべきである。
- **君子は人の美をなし、人の悪をなさず** - 「顔淵第十二」
優れた人物は人に美点や長所があればそれを助け伸ばしてやり、美点長所が大成するように努める。また、悪い点や欠点があれば、それを諫めて悪徳を成し遂げさせないように努める。
- **その悪を攻めて人の悪を攻むるなきは** - 「顔淵第十二」
己の悪を攻めてこれを除くことに専ら心を用いて他人の悪を攻めることがなければ、己の悪のかくれる所がない。これは心に隠れた悪を治め去る方法である。
- **益者三友、損者三友** - 「季氏第十六」
自分の為になる友人には三種類あり、損をする友人も三種類ある。前者は正直な友、誠実な友、博識な友。後者は不正直な友、不誠実な友、口先のうまい友である。
- **己れに如かざる者を友とするなかれ** - 「学而第一」
善を求め道を修め、自らを向上させるためには、自分より劣る者と交わってはならない。出来るだけ優れた人物に会って、付き合っていくことが自分自身を成長させる。
- **我三人行なえば必ずわが師を得** - 「述而第七」
三人で行を共にするとき、必ず自分にとって師とすべき者がいる。善を行う者には従い、不善を行う者がいれば自分を省りみればよいからである。